

情報と職業 第2回レポート

1029259152 計算機科学コース4年 田中勝也

今回は Advanced Telecommunication Research Institute(ATR) から 知能ロボティクス分野の神田崇行さんに「人らしい」ロボットの研究というテーマでお話していただいた。ロボットは人間ではないが、近年のロボットの能力の向上により、「人間らしく」振る舞うことが可能になってきており、また人間ではないことで人間以上の親しみやすさ、楽しさ、わかりやすさといったものを持っているという点から、ロボットのこうした長所をどのように活かしているのかといった様々な研究、例えば、教室や街中といった人間だらけの環境の中にロボットが現れたときの現象、その中でロボットの行う仕事と人間との比較、人間とロボットのインタラクションというような研究について、詳細に紹介していただいた。音声だけではない、表示だけではない、人らしい体を持つロボットだからこそその優位性・問題点、そこからさらに、人間らしいとはどういうことかという点に迫っていくという姿勢が研究者であるということなのかなあと感じることもできたが、ロボティクス分野の研究紹介が詳細すぎたので、個人的にはもっとこういう研究者としての姿勢というか、B4 に伝えたいことという感じの話をもっと聞きたかったなと思った。